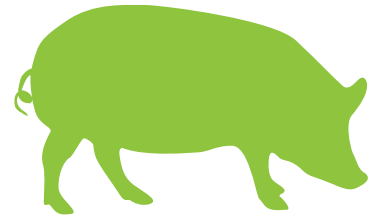


豚肉

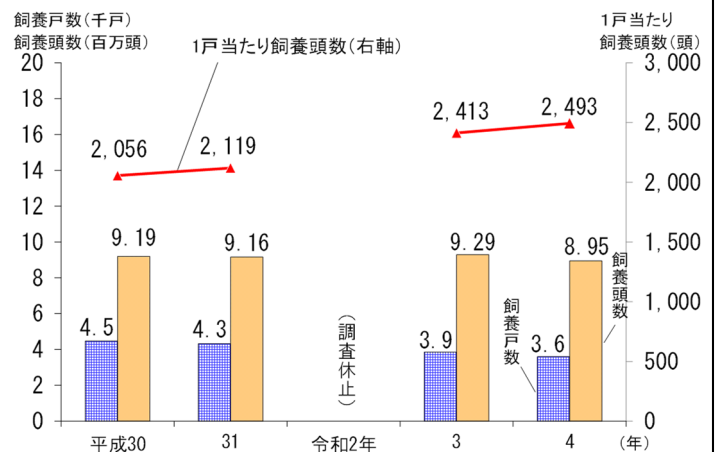


◆飼養動向

4年2月現在の1戸当たり飼養頭数、前年比3.3%増

豚の飼養戸数は減少傾向で推移しており、令和4年は、3590戸（前年比6.8%減）と前年からかなりの程度減少した（図1）。総飼養頭数は、895万頭（同3.7%減）と前年からやや減少した。1戸当たり飼養頭数は、79.8頭増加して2493頭（同3.3%増）となった。また、4年の子取り用雌豚の1戸当たりの飼養頭数も16.1頭増の286.9頭（同5.9%増）となった。小規模生産者を中心として飼養戸数が減少したものの、1戸当たり飼養頭数は増加し大規模化が進行している。

図1 豚の飼養戸数および飼養頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

注1：各年2月1日現在。

注2：令和2年は農林業センサス実施年のためデータなし。

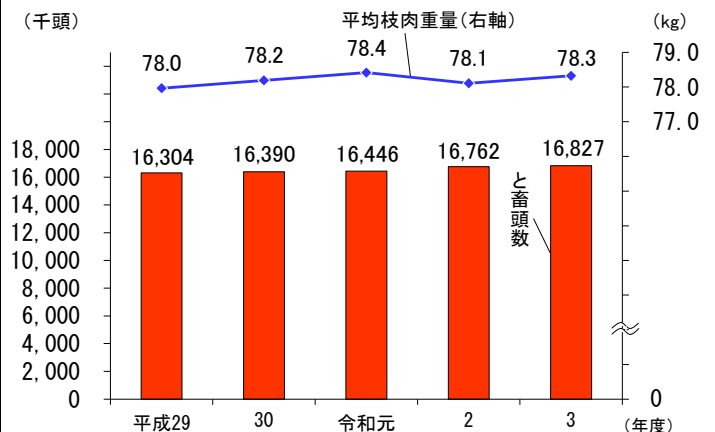
◆生産

3年度の生産量、前年度比0.7%増

豚のと畜頭数は、平成29年度に前年の夏場の猛暑による繁殖成績の低下などで減少したものの、近年は肥育期間の短縮等により、おおむね増加傾向で推移している。令和3年度は、1682万7451頭（前年度比0.4%増）と前年度をわずかに上回った（図2）。

また、同年度の1頭当たりの平均枝肉重量は、78.3キログラムと前年度を0.2キログラム上回った。

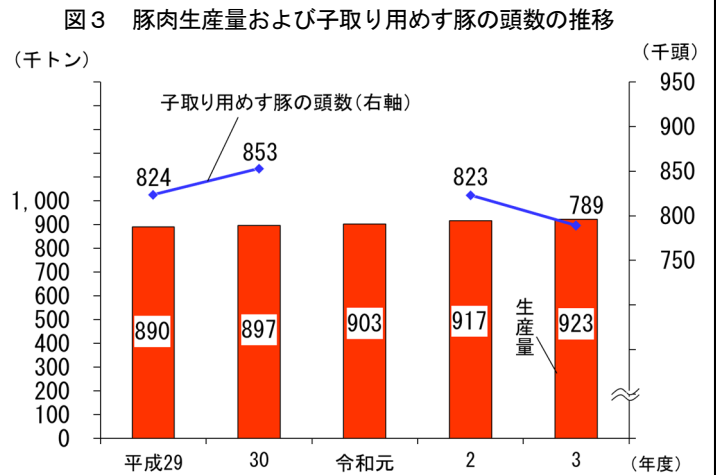
図2 豚のと畜頭数および平均枝肉重量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」

注：平均枝肉重量は全国平均。

生産量については、前述の通り出荷頭数が減少した平成29年度を除き、畜産クラスター事業などの取り組みなどにより、おおむね増加傾向で推移している。令和3年度は、出荷頭数の増加などから92万2656トン(同0.7%増)と前年度をわずかに上回った(図3)。



資料：農林水産省「畜産統計」、「食肉流通統計」
 注1：生産量は、部分肉ベース。
 注2：子取り用めす豚の頭数は、各年度2月1日現在。令和元年度は2020年農林業センサス実施年のためデータなし。

◆ 輸入

3年度の豚肉輸入量、前年度比5.1%増

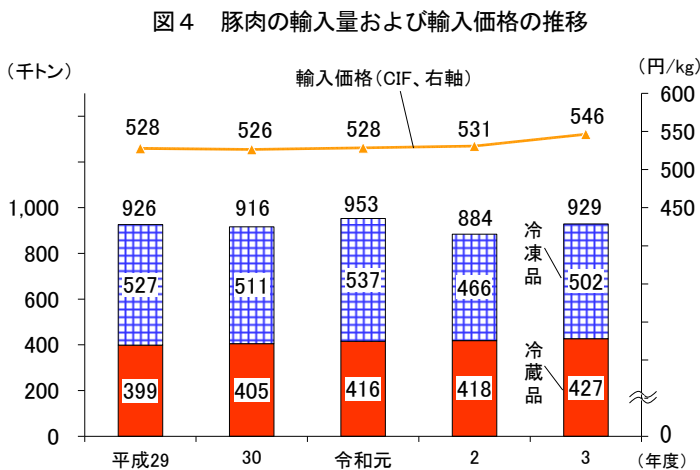
豚肉

豚肉の輸入量については、冷蔵品は、国内での好調な需要などから増加傾向で推移している。冷凍品も、EU諸国からの輸入量の増加や、カットなど技術面の向上によりメキシコ産などの輸入量が増えたこともあり、元年度までは、6年連続で増加していた。

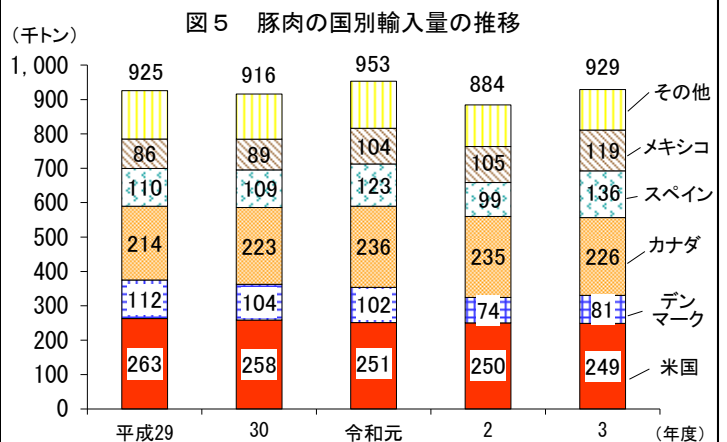
令和3年度は、92万8994トン(前年度比5.1%増)と前年度をやや上回った(図4)。このうち、冷蔵品は外食から内食へのシフトにより、42万6836トン(同2.1%増)と前年度をわずかに上回った。冷

凍品は、前年が新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響による業務用需要の減少により、輸入量が抑えられていた反動などにより、50万2142トン(同7.8%増)と前年度をかなりの程度上回った。

また、3年度の国別輸入量は、米国産が24万9078トン(同0.5%減)、カナダ産が22万6213トン(同3.9%減)、と前年度から減少した一方、スペイン産が13万6233トン(同37.6%増)、メキシコ産は11万8610トン(同13.4%増)、デンマーク産が8万1367トン(同9.6%増)と前年度から増加した(図5)。



資料：財務省「貿易統計」
 注1：部分肉ベース。
 注2：合計にはくず肉を含む。

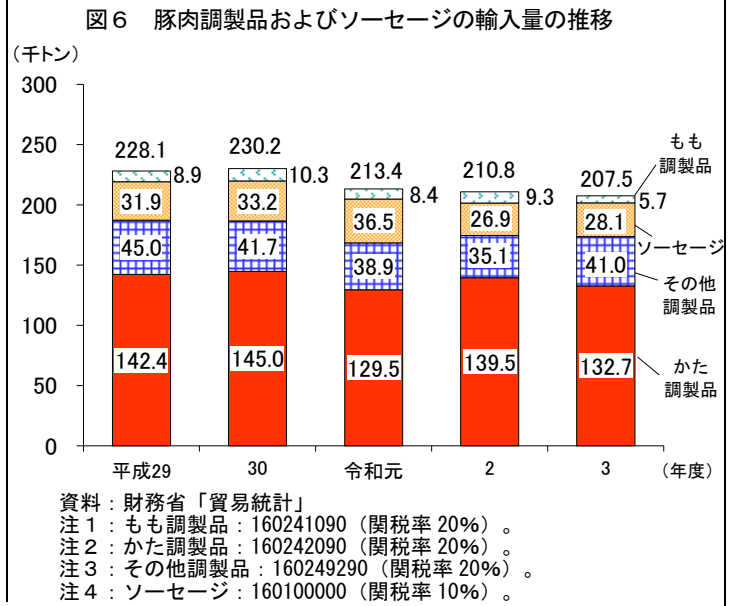


資料：財務省「貿易統計」
 注1：部分肉ベース。
 注2：くず肉を含む。

豚肉調製品・ソーセージ

豚肉調製品やソーセージの輸入量については、底堅い需要がある中で、現地相場の変動に伴う増減を繰り返している。

令和3年度は、ソーセージやその他調製品の輸入量が前年度を上回った。一方、豚肉調製品全体の輸入量は、年度前半はおおむね前年度を上回って推移していたものの後半は下回り、合計では20万7525トン（前年度比1.6%減）と前年度をわずかに下回った（図6）。



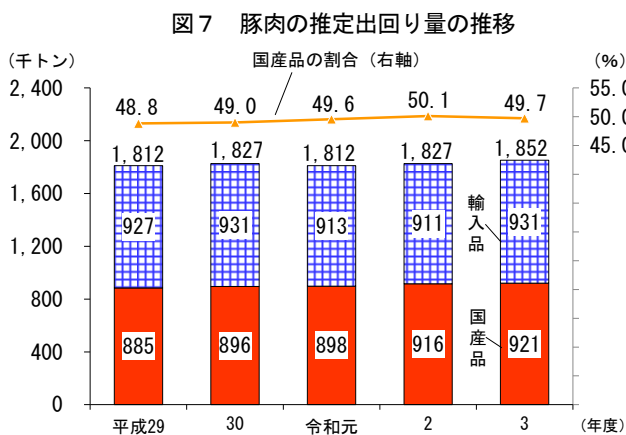
消費

3年度の推定出回り量は前年度比1.4%増、家計消費量は同1.4%減

推定出回り量

豚肉の推定出回り量は、近年の好調な豚肉消費を背景に増加傾向で推移している。

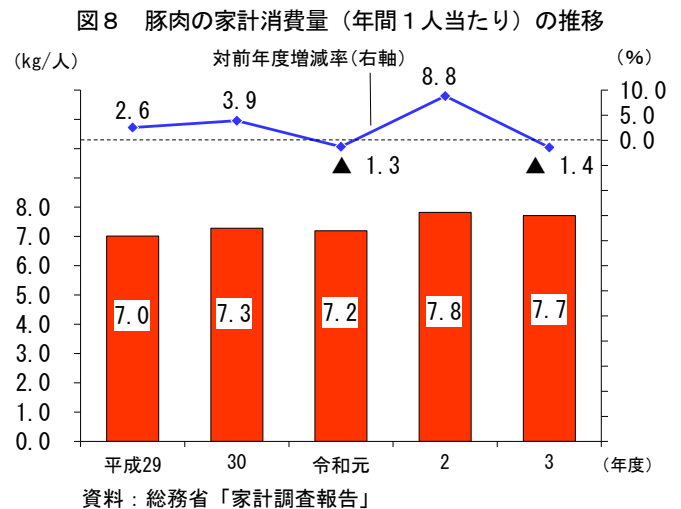
令和3年度は、2年度に引き続きCOVID-19の影響により巣ごもり需要が堅調となったことから、国産品は92万1217トン（前年度比0.6%増）と、輸入品は93万780トン（同2.2%増）と、ともに前年度をわずかに上回った（図7）。この結果、全体でも185万1998トン（同1.4%増）と前年度をわずかに上回った。なお、合計に占める国産品の割合は49.7%（同0.4ポイント減）と前年度を下回った。



資料：農畜産業振興機構推計
 注：部分肉ベース。

家計消費

豚肉消費の約5割を占める家計消費について、年間1人当たりの豚肉の家計消費量を見ると、元年度においては一時的な減少があったものの、家庭における好調な豚肉需要を背景におおむね増加傾向で推移している。3年度は、2年度に引き続き巣ごもり需要が堅調だった一方で、総菜などの中食や加工品も好調だったことから、年間1人当たり7.7キログラム（前年度比1.4%減）と前年度をわずかに下回った（図8）。



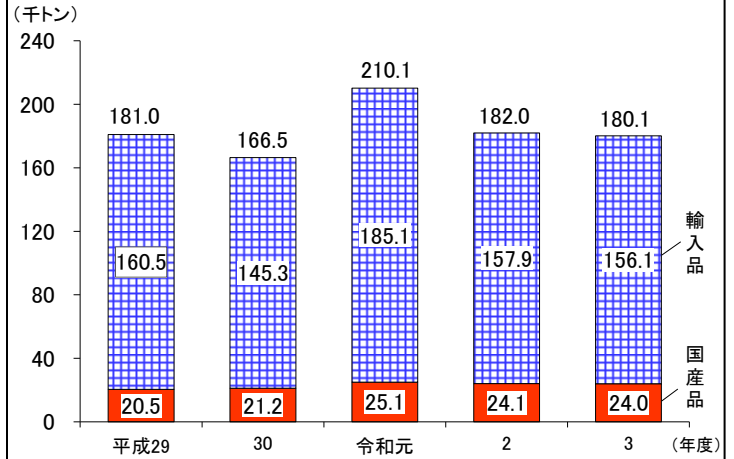
◆在庫

3年度の推定期末在庫量、前年度比1.0%減

豚肉の推定期末在庫量については、約9割を輸入品が占めており、そのうち9割強を冷凍品が占めている。このことから、推定期末在庫は輸入量の影響を受け、増減を繰り返しながら推移している。

令和3年度は、国産品は2年度に引き続きCOVID-19の影響により巣ごもり需要が旺盛となったことにより、2万4001トン（前年度比0.4%減）と前年度をわずかに下回った（図9）。輸入品は、COVID-19の影響による業務用需要の減少などにより、15万6094トン（同1.1%減）と、前年度をわずかに下回った。この結果、合計でも18万95トン（同1.0%減）と前年度をわずかに下回った。

図9 豚肉の推定期末在庫量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

注1：部分肉ベース。

注2：四捨五入の関係で、合計値は必ずしも一致しない。

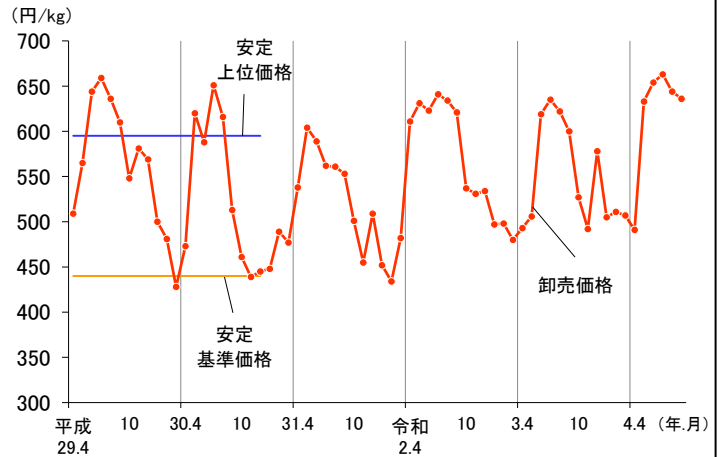
◆枝肉卸売価格

3年度の枝肉卸売価格、3.5%安

豚枝肉卸売価格（東京、極上・上加重平均）は、出荷頭数が少なくなる春から夏にかけて上昇基調で推移し、出荷頭数の増加する秋ごろから低下する傾向にある。

令和2年度は、COVID-19の影響による巣ごもり需要が旺盛となり、価格は例年より高い水準で推移した。3年度は新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言による巣ごもり需要で卸売価格は引き続き堅調に推移したが、巣ごもり需要がやや弱った結果、年度平均では1キログラム当たり550円（前年度比3.5%安）となった（図10）。

図10 豚枝肉の卸売価格（東京）の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」

注1：卸売価格は、極上と上の加重平均。

注2：消費税を含む。

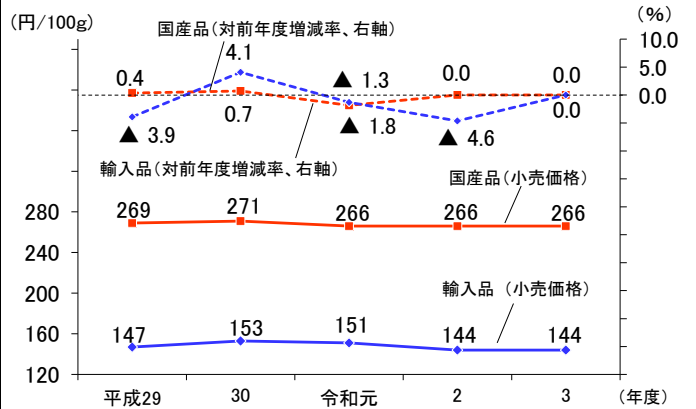
注3：30年度安定価格については、平成30年12月29日まで適用。

◆小売価格

3年度の小売価格、国産品および輸入品いずれも前年度並み

令和3年度の豚肉の小売価格（コース）について、国産品は、生産量が増加したものの、100グラム当たり266円（前年度比100.0%）と前年度並みとなった（図11）。また、輸入品は、冷蔵品の輸入量が増加したものの、同144円（前年度比100.0%）と前年度並みとなった。

図11 豚肉の小売価格（コース）の推移



資料：農畜産業振興機構調べ
注：消費税を含む。